



第 43 号 2021 年 2 月

発行者：NPO 法人 介護の家コスモス男山

〒614-8372 八幡市男山笹谷 4-2 D19-106

TEL：075-983-2737 FAX：075-983-2746

e-mail：kosumosuot@gol.com

ホームページ検索用語 ⇒ 「コスモス男山」

<https://kosumosuot.sakura.ne.jp/hp/>

来春 15 周年を迎える「コスモス男山」と歩んで

昨年は新型コロナウイルスが地球上を覆いストレスフルで大変な 1 年でした。そして終息の兆しも見えない中に新年を迎えました。

新年のご挨拶はいくらか抵抗を感じますが、ともあれ、新年を寿ぎたいと存じます。

来春は小規模多機能型居宅介護事業所コスモス男山が 15 周年を迎えます。最初からご縁があり、そこに誇りを感じる私はその間の心に残った思い出を綴って、コスモス男山とはどういう事業所か、その一端をお伝え出来ればと思います。

先ずデイケア室のある戸を開けると、会社で言えば社是に当たるでしょうか、事業所の理念が額に入れて掲げられています。(1) 笑顔で支え、支えられる関係を、(2) 1 人 1 人の個性を大切に、(3) 人権意識を大切にとあります。それを受けて事業所の特徴として、(1) どんな重度の障害や認知症があっても介護を引き受ける。(2) 利用者の従来 of 生活や価値観をできる限り尊重し、個別ケアを行う。(3) 職員の人権感覚を磨き、利用者の人としての尊厳を守るとあります。事業所に関わる全ての従事者一体となって、それらの実現を目指して努めて来られました。その具体例として心に残っていることを記したいと思います。



開所から 5～6 年頃でしたでしょうか。私の記憶では、全く視力の無い方、レビー小体型認知症でいつも奇声を発している方も通所されていました。3 ヶ月ほど経って訪れたとき、認知症の彼女に奇声はなく静かにソファーに座っておられました。私はこれらので理事長はじめ職員の介護力の高さと労苦を思って感動しました。事業所が一体になって理念の実現を目指し、日頃努力されているのが伝わって参りました。今もそれは変わりありません。

理事 黒澤 喜美枝

コスモス アラカルト

観菊会



10月とはいえ太陽が陰れば肌寒く、顔を出せばポカポカ陽気。そんな日に市民の森へ観菊に出かけました。利用者さん6名、職員4名総勢10人で3台の車に分乗して出発。今日のお目当ては明智光秀夫婦の菊人形と疫病を退治する妖怪アマビエとの対面。恒例のお茶会と鯉へのエサやりは中止。

写真撮影タイムにマスクを外し、一瞬の笑顔。

芋ほり、つるの煮物

調理の担当がダメ元で植えてみたサツマイモの切れ端。なんと、芽が出て花が咲き、葉が茂りました。まずは芋のつるを収穫し、佃煮風に煮て美味しくいただきました。



そして、いよいよ芋掘りの時！みんなでワイワイ言いながらわずかな芋を大切に掘り起こし、ふかし芋に。めでたくみんなのお腹におさまりました。調理担当さん、ありがとう！

正月飾り作成

例年、11月の終わりから12月にかけて、翌年の干支の飾りや羽子板を作ります。できた作品はご自宅に持ち帰り飾られます。まあい丑の置物の正体はガチャガチャの不要になったケース。愛嬌のある丑さんが、みなさんに福をもたらしてくれることでしょう。



クリスマス会



12月25日、クリスマス会を開きました。コロナ禍でのことなので、20分ほどの催しでしたが、みんなが笑い、拍手し、心躍る時間が流れました。

まず、クリスマスソングをハンドベルで合奏。次は職員による出し物の時間。トリは郷ひろみ「お嫁サンバ」の曲に合わせて、人形を担いでの、いまだに思い出し笑いが止まらないほど愉快的な踊り。会場が笑いに包まれました。「毎日やってほしいわ」とは利用者さんの声。日常の中の「ハレ」の時間。大切にしたいです。

ゆびまるこちゃん

コスモスわくわく教室に「ちびまるこ」ならぬ「ゆびまるこ」ちゃんが講師で来られるようになって 4 年目です。パステルを茶こしで削って、指で塗っていきます。パステルカラーの柔らかな色の魅力と、指でくるくる塗っていく感触が面白く、自分の思いのままのびのび描けるのが嬉しいと人気です。丑の絵や、富士山の絵を仕上げました。



クリスマス会

ウクレレ・コスモス会のメンバー(男性 4 名・女性 2 名)によるライブから始まりました。アロハシャツで登場され、ハワイアンやクリスマスソングなど 8 曲を演奏。コーヒールンバが始まると、参加者 2 名の方が曲に合わせてジルバを踊り、楽しみました。最後に参加者から「アンコール」の声がかかり、みんなで「ふるさと」を一緒に歌い大いに盛り上がりました。

その後、フォークダンス、「あわてんぼうのサンタクロース」「オクラホマミクサー」を踊り、年齢を忘れるひとときを過ごしました。

参加者 A さんの感想：クリスマス会の音楽は、心ウキウキで、一足早い夏の気分を味わいました。そのころにはコロナも終息しているといいなあ～



2020 年は 1 月から人との接触を避ける生活でしたが、皆さん、寂しい思いをされており、月 2 回の「わくわく教室」の時は、弾けるような話で交流を深められています。わくわくの存在を喜んでくださっているのがよくわかり、嬉しく思いました。(わくわく教室講師)

職員研修兼地域講座

今年度の職員研修兼地域講座は新型コロナ禍の「自粛ムード」の中で、9月「身体の歪みと腰痛」（講師・熊野利明さん）、10月「微生物の話」（講師・齋藤光寛さん）、11月「裁判から見える介護の課題」（講師・石川亮祐さん）の3回開催しました。なお、下記の文章は、「研修報告書感想」を要約したものですので、文章責任は編集の側にあります。

「身体の歪みと腰痛」

人が類人猿と呼ばれる遙か昔、動物と同様に4本足で歩行していた。進化して二本足で歩くようになって腰痛という厄介な症状が出てくる。体重を4本の足で支えるのと2本の足で支えるのと足の付け根の骨(腰骨)に対する負荷は倍になる。加えて重量のある人を抱えた場合即腰痛に直結する。抱えてケアしない、NO リフト運動の更なる拡大を願いたい。(K・I)

「微生物の話」

人の生活は微生物と共にある。微生物の力を借りて健康を保ったり、逆に病原微生物による感染症と闘ったりしている。人類が生まれる何十億年前から誕生した微生物は未知の分野で、解かっている事はほんの僅かに過ぎない。人と微生物とがバランスを保ちながら共生していく事が大切だと思う。新型コロナも感染予防は大事だが、何れ暴走を止めて弱毒化されていくだろう。心穏やかに過ごしていきたいものです。(A・O)

「裁判から見える介護の課題」

以前ガイドヘルパーの仕事をしていた時に色々な多目的トイレを利用しましたが、一番良いと思ったのは病院等にある「便器とドアの間にカーテンをつけてあるトイレ」です。用を足している姿を見られたくないと思う利用者さんのプライバシーを確保しつつ、「ヘルプ」の声をかけられた時すぐに対応出来る態勢が取れるからです。厚いドアの外で待機していると、中で助けを求められても聞こえない場合があります。(A・M)

*コスモスに於いても、安全確保とプライバシー確保を同時に満足させる方法を課題に考えていきましょう。

所長就任のご挨拶 西村 宜子

10月からコスモス男山の所長として勤務しています。まだまだ未熟なところも多く、所長としての務めを果たせる自信はありません。何かあればすぐに助けてくれる職員の方々やいつも優しく接して下さる利用者やご家族の方々。このような周りの方たちの協力を得て、コスモス男山と共に自分自身も成長していけたらと思います。

宜しくお願い致します。

コスモス・カルチャー

俳句

- 丹波黒レシピ通りの去年今年
- 初春の庭鯉の餌ゆずられて
- 洋蘭展隣り合わせる春セーター
- ポンと背を押されて一歩二日かな
- ものの芽のあしたあさつてしあさつて
- 茶柱にひとり幸せ春近し
- 落合えば飯食う話春の道
- 筒開けの音ぼんぽんと卒業す
- 炉塞ぎや原発日本蓋閉じよ

みやこ

かつら

信

☆ コスモス男山の活動状況 ② ☆

活動日誌 2020年10月～2021年1月

- 10月** 1日…「コスモスだより」42号発行／処遇改善交付金前期支給／わくわく教室(以後毎月第1・3木曜日開催) 11日～17日…サービズ評価自己評価会議 11日…職員研修・地域講座「微生物の話」(講師…齋藤光實氏) 14日…誕生日会 17日…オレンジカフェ(以後毎月第3土曜日開催)／ケア会議(以後毎月第3土曜日開催) 21日…事務局会議(以後毎月第4水曜日開催) 26日…健康診断
 - 11月** 11日…運営推進会議(以後奇数月第3月曜日開催) 17日…人事委員会(不定期開催) 19日…バイク(新車)購入 25日…就業規則改定説明会 29日…職員研修・地域講座「裁判から見た介護の課題」(講師…石川亮祐氏)
 - 12月** 1日…冬季賞与支給 2日…調理会議 16日…誕生日会 25日…クリスマス会
 - 1月** 15日…理事会(書面)／誕生日会 29日…非介護職研修「認知症の基礎的理解」
- 今後の活動予定 次号44号まで**
- 2月** 1日…コスモスだより43号発行 1日～5日…京都府立八幡支援学校実習生受け入れ 6日…非介護職研修「認知症の基礎的理解」 15日…誕生日会
 - 3月** 1日…処遇改善交付金後期支給

| 書名 | 著者 | 発行所 |
|-----------------------------------|-------------|--------|
| 魂の痕 | 梁石日 | 河出書房新社 |
| パンドラの箱は閉じられたのか 相模原障害者殺傷事件は終わっていない | 月刊「創」編集部編 | 創出版 |
| 「山奥ニート」やっています | 石井あらた | 光文社 |
| やまゆり園事件 「植松聖」とは誰なのか | 神奈川新聞取材班 | 幻冬舎 |
| ファシズムの教室 なぜ集団は暴走するのか | 田野大輔 | 大月書店 |
| 眠りの神 死は悲劇か、救いか | 犬塚理人 | 角川書店 |
| だから、もう眠らせてほしい 安楽死と緩和ケアを巡る、私たちの物語 | 西智弘 | 晶文社 |
| 大一揆 | 平谷美樹 | 角川書店 |
| 死を受け入れること 生と死を巡る対談 | 養老孟子、小堀鴎一郎 | 祥伝社 |
| 相模原事件傍聴記 「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ | 雨宮処凛 | 太田出版 |
| 抗路 6・7 | 尹健次他 | 抗路社 |
| 介護保険が危ない！（岩波ブックレット） | 上野千鶴子、樋口恵子編 | 岩波書店 |
| エンド・オブ・ライフ | 佐々涼子 | 集英社 |
| あなたが私を竹槍で突き殺す前に | 李龍徳 | 河出書房新社 |
| コロナ後の世界を生きる | 村上陽一郎編 | 岩波書店 |

事務局より

みなさまからご寄付をいただきました。

- ・「ふきよせ」さん、小林博子さんから捨て布を
- ・栗ヶ谷の藤井さんから食器類を

ありがとうございました。



編集後記

二月は春立つ季節。ヒキコモリ生活中、「立春開門」という言葉に出会い、胎内を温かい気が流れました。後で、陶芸家・河井寛次郎さんの随筆タイトルと知り、青磁と辰砂を組み合わせた彼の作品は春立つ頃の色でもあるのだと勝手に納得しました。

立春といえば、前日が節分。旧年と新年との節目。寺社に詣でると、「立春大吉」というお札を門でたまに見かけます。この札を縦に半切すると縁起の良い対称吉字（鏡文字）ができるということです。また、節分には悪疫邪気を退散させる各種儀式や風習があります。除災招福豆で魔を滅する（魔滅IIまめ）という願いを込めて行う寺社の追儺式（鬼やらい）や家庭での豆まきなどです。ヒイラギ鯛も家に悪霊が近寄らないとか。

2021年になってもコロナ禍で迷走の国内。魔滅の豆まき大会をしなければならぬほど日本の政治は新型コロナ・ウィルスに翻弄され、大混乱続きで、その結果、医療崩壊の危機を招いています。

政府が新自由主義を是としていたため、「総合的、俯瞰的」に本質を見通せない「政治」が続き、後手の対応になっていると老生は考えます。

我々の眼前には、コロナ対策だけでなく、再生可能な地球にするための脱炭素社会、子供たちが希望を持つことができる脱格差社会など重要な課題が山積みされています。だからこそ、政治よ、シツカリしろ！と、春の嵐や雷鳴に負けないほどの声を張り上げて、怒る日々です。

コロナ禍の終息を一心に祈りながら、老生の春の修羅を吐露する次第となりました。（三礼）